

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「話し言葉と書き言葉」 教材名「話し言葉と書き言葉」

2 単元の目標

話し言葉と書き言葉の違いに気付き、場面に合う表現を使うことができる。文章を読む相手を考え、全体の構成や書き表し方を確かめて直すことができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①話し言葉と書き言葉の違いに気付き、場面に合う表現を使っている。 (〔知識及び技能〕(1)イ)	①「書くこと」において、文章を読む相手を考え、全体の構成や書き表し方を確かめて直している。(B(1)オ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

話し言葉と書き言葉では、場面を共有する度合いや伝え方が違うと知り、相手に必要な情報を補って書く。話し言葉を劣った言葉として扱わない。学習指導要領のB(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)イを、言語活動の中で確かめる。年間指導計画の重点項目は知識・技能である。本案では、身に付けた知識を文や話の中で使う言語活動に対応する思考・判断・表現の事項も関連付けている。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

独自例「それ、あとでここに置いて」を、読んだ相手が場所と物を決められるかで検討する。日時や場所は架空の条件を明示して自分で設定し、伝達に必要な語を加える。おおむね満足できる状況は、文章を読む相手を考え、全体の構成や書き表し方を確かめて直しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○会話と文の伝わり方を比べる。省かれた情報や指示語を確かめる。相手に合わせて書き換える。残した表現と変えた表現の理由を説明する。	思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

文章を読む相手を考え、全体の構成や書き表し方を確かめて直すことができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	使う教材を確かめ、今日比べる言葉や表現への自分の考えを短く書く。 ○「その場にいない人にも伝えるには、どの言葉を直したり補ったりしますか」 【めあて】話し言葉と書き言葉では、場面を共有する度合いや伝え方が違うと知り、相手に必要な情報を補って書く。 〈予想される児童の反応〉 ・「ここ」だけでは場所が分からない。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「その場にいない人にも伝えるには、どの言葉を直したり補ったりしますか」 会話と文の伝わり方を比べる。省かれた情報や指示語を確かめる。相手に合わせて書き換える。残した表現と変えた表現の理由を説明する。 口頭での伝え方と、場面を知らない相手に渡す文章を並べた記録。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・「ここ」だけでは場所が分からない。 ・話す時は指で示せるが文では名前が必要。 ・会話の勢いを全部消す必要はないと思う。	独自例「それ、あとでここに置いて」を、読んだ相手が場所と物を決められるかで検討する。日時や場所は架空の条件を明示して自分で設定し、伝達に必要な語を加える。 想定するつまずき：口語をすべて硬い漢語へ変えればよいと考える、指示語の指すものを説明しない。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 文章を読む相手を考え、全体の構成や書き表し方を確かめて直している。 (発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・会話の勢いを全部消す必要はないと思う。	まとめの文を先に与えて写させず、本時に扱った語や自分の例を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。今後の国語学習や日常の読み書きでも、今日確かめたことを使えるよう記録を残す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「その場にいない人にも伝えるには、どの言葉を直したり補ったりしますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

